

『火おこし（まいぎり式）』

現代社会では味わうことができない「火をおこすことの苦勞」を体験し、「火の大切さ」を知ることができる活動である。当施設の火おこし体験は「まいぎり式」で、江戸時代以降、神事で用いられたのが記録として最も古いようで、それ以前の証拠（出土）はないようだ。

野外炊事や焚き火をする際に火おこし活動を組み入れることにより、教育的効果をあげることができる。

- 【時期】 通年
【所要時間】 1時間以上
【対象】 小学校高学年以上
【定員】 100名（1グループ2～3名）



- 【準備】（個人）よごれても良い服装（化学繊維の服は避ける）、
軍手、はさみ
（団体）火きり板、火きりぎね
※火おこしの材料は、自然の家売店で購入可能。活動をする団体は事前に教材等購入申込書を提出する。



火きり板（1グループに1枚）



火きりぎね（1グループに1セット5本）

- （自然の家）まいぎり式火おこし道具一式、麻ひも、チップ、火受け筒、板
【指導】 自然の家職員は、道具の説明と火おこしの方法を指導します。活動中の安全管理は団体の引率者が行ってください。

【展開例】

1. グリーンホールに集合し、職員からの説明を聞く。
2. 間隔をあけてグループごとに道具を準備する。
3. 麻ひもを切ってほぐす。
4. 火種を作り、麻ひもやチップで火種を大きくする。
5. 活動終了後、後片付けや整理整頓・清掃をしっかりする。

【活動の留意点】

1. 参加者に持ち物などの事前指導をする等、準備を整えておく。
 - ・火気の取り扱いについては十分注意する。
 - ・やけどをするおそれがあるので、必ず軍手を着用する。
 - ・火種を大きくする際はマスクを外すので間隔を開けるよう指導する。
2. 緊急性の高いアクシデントが起こった場合など自然の家事務室に連絡を入れる。
3. YouTube「日高 Sun 太ちゃんねる」を事前に見て、火おこしの仕方を確認しておく。
* 右のQRコードを読み込むか、
「日高 sun 太ちゃんねる」で検索してください。



- 【参考】 ○特別活動 ～校外における集団活動を通して、教師と児童、児童相互の人的な触れ合いを深め、楽しい思い出を作る。
- 教科との
関連